

茨内水試  
かわら版  
83号

改善飼料による

コイ飼育結果

霞ヶ浦北浦で改善飼料  
を使うようになってから  
三年経ち、これまで(平均)  
白質約40%の飼料から  
現在では36%以下まで  
下げることに成功してお  
ります。

なぜ蛋白質の量を下げ  
るかというと、蛋白質  
質は窒素の化合物  
ですから、餌の中に含  
まれる窒素(化学記  
号ではNと表示します)

の量を減らすことによ  
り、排泄されるNの量  
を少なくしようとして  
いるからです。

しかし、蛋白質はコイに  
とっても重要な栄養  
素ですから、むやみに減  
らす訳にはいきません。  
そんなことをしていたら

コイは成長しないし、病  
気になって死んでしま  
います。

そこで、蛋白質をどの  
程度まで低下させる  
ことができるか、また蛋  
白質を無駄なく効  
率的に利用できる  
ようにするにはどう  
したらよいか等の研  
究が必要になってき

ます。現在の改善飼  
料が、低蛋白、高カロリー  
の飼料であるのも、こ  
のような研究結果か  
らきているのです。

左の表は、今年霞ヶ浦  
北浦で販売されてい  
る飼料を用いて、試  
験場で飼育試験をし  
た結果です。これは意  
識的に脂肪の量を低  
くしている餌で、これを降  
くと、蛋白質40%以上の  
餌外飼料と同様の成  
長を示していることが  
わかります。

改善飼料によるコイの飼育結果

飼料の種類	改善飼料			餌外飼料
	A	B	C	
粗蛋白質	35.1%	33.9	33.7	40.7
粗脂肪	11.1%	8.1	5.1	8.1
放養時平均体量	179g	193	177	177
取揚時	608g	587	555	573
成長率	336%	304	306	317
増重量	63.4kg	59.1	54.5	57.5
投餌量	69.1kg	62.2	77.6	60.4
増肉係数	1.09	1.05	1.42	1.05

(注) ① 飼育期間 61年7月7日～9月8日

② 飼育尾数: 150尾

③ 給餌 手撒き、3回/日

④ 粗蛋白質、粗脂肪は、大まかには蛋白質、脂肪のみ2割。

茨内水試図